



13  
1961  
73



寛政十一年



遠
1761
38

13  
1961  
73

五体ごたい和合わがっ談序だんじゆ

臣軌おんぎ同体どうたい章しやうとそ君臣くんしんとをぶとてのを一いつ也なりと云い言ことばあり。股肱こたう  
耳みみの臣しんと隣りんもと心こころちとみくとめけらしとたふる言ことばあり。  
人ひと小せう天地てんちあり。五ご心しんのまん中ちゆうおもひさるのありてこれと  
京きやうとてつるつるハ五ご心しんの大だい將軍しやうぐんあり。心こころのおまはつめにやせむかふ  
正直せいせきのかぎとつと死し。身みふ明徳めいとくのよろひとちやく。こゝにんを  
の大だいカかとと心こころの駒こまふうちのりて。心こころのさうさうあり。足あしとさる  
乃の下知げちとふ。けんやくとまのてとまて。ちの邪念じあんと  
あやたれが死し。耳みみ目め鼻び口くち手て足あし等とうのつひのよくをさし死し。  
五体ごたい和合わがっ一いつ生身せいしんにこのを一いつととおわくらまいさあせ。この  
冊子さくしかをかこれ。人の心こころのねさめらまらそ。五侍ごせうふ治乱ちらん興亡きやうべいの  
教きやうと。児女にによふとやま。あふるるあふるたより云い。

寛政十一年未春

醒世老人京傳述





赤心

人と木の形、天の地、圖



此の山は人の形に似たり  
 故に人の山と云ふなり  
 此の山は人の形に似たり  
 故に人の山と云ふなり  
 此の山は人の形に似たり  
 故に人の山と云ふなり



三日月のあつちのひと  
 こゝろのあつちのひと  
 のちのちのあつちのひと  
 のあつちのひと

さて人の形に似たり  
 故に人の山と云ふなり  
 此の山は人の形に似たり  
 故に人の山と云ふなり



めのかんどうもい  
まどあてると  
きくうとひの  
つづることあり  
それとて  
天ふらひやう  
あかごとい  
人のうらご  
小も火のあ  
らあやう



あき  
てんちのあつちあつち  
うぶてあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち



あつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち



あつち



心は人の  
 氣は人の  
 心は人の  
 氣は人の



目  
 鼻  
 手  
 耳

目  
 鼻  
 手  
 耳







子あひは中あひがる小あひがは  
 あまろふ又つまらむとせとて  
 中あひはちか  
 のことさ  
 かむつと  
 るつて子  
 あひと  
 まつら  
 うふま  
 ぶが  
 あれも  
 あまろ  
 らふ  
 のちい  
 かり  
 ま  
 中あひ  
 うら  
 ひ  
 ろ  
 う  
 う  
 中あひ  
 の  
 あ  
 中あひ  
 あり



中あひの  
 つら  
 中あひ  
 あり

中あひ

これま  
 中あひ  
 あり

中あひさんちんこのあ  
 ありあり



中あひ  
 あり

七



わいふは...  
こひすき...  
あつて...  
この...  
さす...  
さす...  
さす...



おまけの...  
よわ...  
せ...

おひん...  
うん...

れび去

おひん...  
うん...  
おひん...  
うん...

あつて...  
こひす...  
あつて...  
この...  
さす...  
さす...  
さす...



あつて...  
こひす...  
あつて...  
この...  
さす...  
さす...  
さす...

あつて...  
こひす...  
あつて...  
この...  
さす...  
さす...  
さす...

あつて...  
こひす...  
あつて...  
この...  
さす...  
さす...  
さす...

かくてあさまつほしと  
 ちひりしうらぬしなれハ  
 けしはひさしうらぬハ  
 しのまはんとふひの  
 つくく人ささてハ  
 下よりあまな  
 あさまつほし  
 日のあり  
 とれた  
 ちりどとちり  
 ちりどとちり  
 ひらに  
 ひらに  
 けんちり  
 けんちり  
 けんちり

和合

こひんとらふの  
 あさまつほし  
 のあれはさ  
 けしはひさし  
 つくく人さ  
 下よりあま



あさまつほし  
 のあれはさ  
 けしはひさし  
 つくく人さ  
 下よりあま

龍手將軍

龍手將軍の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり  
龍手親政は  
龍手親政の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり

龍手親政の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり



龍手親政の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり  
龍手親政は  
龍手親政の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり



龍手親政の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり

龍手親政の御  
名は龍手親政と  
いふなりけり





指  
 指  
 指  
 指  
 指

指  
 指  
 指  
 指  
 指

指  
 指  
 指



痺  
 痺  
 痺  
 痺  
 痺

痺  
 痺  
 痺  
 痺  
 痺

十二

十二



心  
 徳の  
 あいり  
 ことこのゆりあり



心

大左  
 十  
 の  
 こ

心  
 徳の  
 あいり  
 ことこのゆりあり



大左  
 十  
 の  
 こ

入のくゞだふらうては心ざしめて  
 されしが体たふと人との心ざりて  
 こと人しのふれはあはれはあはれ  
 知れどもこのふれはあはれはあはれ  
 のうくゞだふらうては心ざしめて  
 中の一はれ小ことんてはあはれはあはれ  
 中の一はれ小ことんてはあはれはあはれ  
 つたふらうてはあはれはあはれはあはれ  
 これことんてはあはれはあはれはあはれ

京傳作  
 忠臣水滸傳と申す  
 りの出来ずん

〇口上

京傳作 忠臣水滸傳と申す  
 りの出来ずん  
 つたふらうてはあはれはあはれはあはれ  
 これことんてはあはれはあはれはあはれ  
 のうくゞだふらうては心ざしめて  
 中の一はれ小ことんてはあはれはあはれ  
 中の一はれ小ことんてはあはれはあはれ  
 つたふらうてはあはれはあはれはあはれ  
 これことんてはあはれはあはれはあはれ

豊田画



京傳作





